

IT技術者の長寿と健康のために



一般社団法人
情報通信医学研究所 編
長野 宏宣 他著

ISBN : 978-4-7649-0513-9
近代科学社刊
A5変型版・224頁
定価2,400円(税抜)
2016年6月28日刊

本書は長い間NTTにおいてソフトウェア開発関連の研究及び実務に従事されていた長野宏宣氏はじめ8名の著者により書かれたものであり、うち4名はお医者さん。本書は以下の章立てである。

- 第1章 IT企業における産業医学
- 第2章 IT技術者と健康
- 第3章 わが国のIT産業の実態
- 第4章 IT産業の技術者を大切にす—適切な開示制度を
- 第5章 IT企業の未来について

第1章では、情報通信医学研究所代表の中川博士が1994年にITの世界に触れ、IT研究者として参画し、産業医として医学に帰り2011年に当研究所の代表となる経緯が説明されている。医学研究者、IT研究者、IT業界の産業医としてIT現場の実務の観察を通して、IT技術者が「健康で長生きするための生活習慣というプログラム」を提案されている。

第2章では編者らの体験も含め、IT技術者の罹患しやすい病例が臨場感をもって記述されている。

第3章では、IT技術者がメンタルな病気になる可能性の高い労働環境であることが紹介されている。

第4章は、IT業界では人材が極めて重要であるにもかかわらず、多重下請け構造もあり、社員の健康状態が会社により適切に管理されていないのではないかと状況報告書の記載事項とすることを提言している。

第5章は、前章までと全く異なり、IT産業そのものの今後に対して展望を記述している。

第4章にて提案されている有価証券報告書での開示制度が早急には実現しないと想像される現在、IT産業にかかわるものは、「なによりも、人が大切」という帯の安西悠一郎博士の言葉を心にとめることにしよう。
(新谷 勝利)



山岡 俊樹 著

ISBN : 978-4-320-07198-8
共立出版
A5判・244頁
定価3,200円(税抜)
2016年6月27日刊

サービスデザイン

フレームワークと事例で学ぶサービス構築

モノがあふれる現代社会では、画一的な物作りからサービスを含む価値をユーザーに選んでもらうことを重視する方向へと動いている。一製品の機能ではなく、製品やシステムを統合化して、サービスをデザインすることで、他にはない価値を創造・提供できるが、そのサービスをデザインするにはどうしたらよいのか。本書は汎用システムデザインプロセスによりこれに答えるものとなっている。特徴は個人の直感やセンスに依存することなく、ユーザーが満足するサービスを論理的にデザインする手法にある。

近年、ワークショップや顧客との協創などが提唱されているが、その限界を考える必要があり、全面的に依存するのではなく参考程度にとどめ、自力で発想できる目利き力を付ける必要があると述べている。本書で紹介しているフレームワークと関連知識はその目利き力を作るための基本であり、体験を通じて、この枠組みを何度も回し目利き力を高めていくことが可能であるということを紹介している。

本書の前半はサービスデザインの考え方やデザイン方法について書かれており、後半は様々な企業でのサービスデザインの活用事例で構成されている。活用事例にはIoTを活用したサービスデザイン戦略などといった最新事例も含まれる。理論と事例を一冊で手に取ることができる書籍である。
(遠藤 秀則)